

分掌	重点目標	達成目標	達成度	評価分析
総務部	定期的に『進徳だより』を発行することで、保護者に本校の取り組みを広報する。	年間3回、『進徳だより』を発行し、保護者に配付(5月・9月・12月)	D	学校行事ごとに発行する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で学校行事が縮小したため、発行しなかった。
	授業参観やPTA総会・芸術鑑賞・文化祭・体育祭などへの保護者の参加を積極的に促し、本校教育活動への理解を深める。	学校行事の保護者出席率60%(全行事のべ率)	D	新型コロナウイルスの影響で、学校行事を変更し、無観客や人数制限を行ったため、保護者の出席を促すことができなかった。
	清掃活動を徹底的に行い、校内美化に努める。	清掃活動を徹底的に行い、校内美化に努める。	A	ゴミの分別やゴミの削減等の取り組みを行い、校内美化を進めることができた。
教務部	高大接続改革、高大連携教育に対応した教育を実現する。	次期学習指導要領の周知と、新教育課程に向けたカリキュラム案の作成を行う。	A	大学受験のためだけでなく幅広い進路に対応し、かつ進学・就職後まで見据えた先取り授業を取り入れたカリキュラムになっていると思われる。
	研究(公開)授業および授業評価アンケートを実施し、学力向上の現状・課題を把握する。	研究授業の実施(各教員が4年間に1回以上実施)	D	1サイクル4年間の2年目であるが、今年度は試験的なオンライン授業やそのためのICT研修などに時間を取られ2教科2名の実施にとどまった。
		授業評価アンケートを100%実施する。	100%	新評価方法を見据え、各授業担当者が授業スタイルに合わせた方法で実施した。
	教科主任会議を実施し、全体の協働体制を確立し、教員を育成する。	教科主任会議を年12回開催する。	100%	新教育課程に関する情報共有のため、計画以上に開催した。
	授業時数を確保し、特に国際食育デザイン科では、調理師養成施設として専門科目の知識と確かな技術を身に付けさせる。	国際食育デザイン科の専門科目における1単位35単位時間の厳守。	100%	長期休暇などを利用して補充計画を作成し、実施した。
ICT推進	第1学年生徒を中心にICT活用能力とともに情報モラルを育成する。	授業内での利用目的の達成度評価(定期考査素点、タブレットを用いた提出物)を行う。	C	提出物の管理をはじめ徐々に活用できている。定期考査の素点に大きな変化はない。欠席の生徒への授業プリントや板書の共有がスムーズになり、授業の遅れが改善された。
	研修を行い、対外的にもアピールできる資格や認定を取得する。	ICTを活用した授業の公開(相互授業見学)と研修を実施(研修6回以上)および20代~30代教員のAppleTeacher取得100%。	87%	相互授業見学を行うことはできなかった。複数回の研修によりApple teacherの取得率87%、ロイロノート認定ティーチャー2名、Google認定教育者レベル1を4名となった。
	タブレットの使用アプリの汎用性を検証する。	各アプリの利用と効果についてアンケート(教員・生徒)を実施する。(実施率100%)	100%	必要に応じて複数回実施できた。ロイロノートは多くの教員から好評であり、業務軽減に役立っている。
進路指導部	自主的な学習習慣の構築、基礎・基本の定着及び学力の向上を図る。	学習時間調査を行い、基礎学力向上に取り組む、学習時間増加のための情報提供・注意喚起を行う。	B	提出方法をclassi入力に変更したため、生徒は気軽に記入できた。
	自ら進路選択ができ、その可能性を信じて実現に向けた持続的な努力のできる生徒を育てる。	生徒の学力・学習状況を把握し、一人一人の進路先に合った進路指導を行う。	A	今年度、国公立大学4名の合格を出した。生徒それぞれの強みを発揮できる入試方法に挑戦できた。
	総合コース・選抜コース・国際食育デザイン科の指導目的を明確にする。	総合は検定一人2つ以上、選抜は1年次に志望校決定、国際食育デザイン科はインターンシップを実施し、調理・接客などの現場を体験する。	A	それぞれのコースの特徴を活かした取り組みの中で進路決定ができています。
	人材育成を組織的・計画的に行い、学校経営に積極的に参加する意識を育てる。	教職員が本校の目指す姿を共通で認識する機会として、会議を行う。	B	会議をすることが目的ではなく、classi等で必要な情報は共有できた。

分掌	重点目標	達成目標	達成度	評価分析	
生徒指導部	自己肯定感を育成するとともに、他者のことを尊重する態度を身につけさせる。	いじめ防止・対策にむけてアンケートを2回以上実施	A	長期休暇前にアンケートを実施した。気になる生徒に関しては、担任と密に連携を取り、場合によっては個別面談を行った。	
	基本的な生活習慣の確立を図り、規律ある行動がとれるようにさせる。	遅刻防止・ベル着に向けたの時間を守る指導を5回以上実施	A	遅刻防止週間を年に5回実施し、生活習慣の改善を促した。	
		アルバイトを希望する生徒に対する指導を4月に行いその後は随時実施	B	希望者には、一人一人規定を丁寧に説明し、本校生徒であることの自覚と責任を持たせた。	
		頭髪・服装・身だしなみ指導の風紀検査を3回以上実施	A	各学期ごとに風紀検査を実施し、改善指導を継続的に行った。	
	安全教育の徹底を図り、生命の大切さを理解させる。	登下校指導・校外指導を5回以上実施	A	試験終了後に、店舗等に出向いた。登下校時に自転車通学者を指導した。	
		自転車マナー・スマートフォンの使い方・防犯対策など安全教室を3回以上実施	B	講堂に全学年が集合できなかったため、対象者を絞り講義や、説諭を行った。	
	教職員、保護者の協力と共通理解のもと、連携の取れた指導を行う。	正門での挨拶運動を毎日実施	A	挨拶運動だけではなく、生徒の様子を観察し、必要な場合は声掛けや指導を行った。	
	保健	自分の体と心の状態を知る・感じる・体感することを保健だより等で支援する	毎週連携強化のため、教育相談・生徒指導・カウンセリングとの情報交換を行う	A	毎週の連絡連携は欠かすことなく実施。生徒の状況によっては、必要時迅速な情報共有と共に、適切に支援提供を行うための連携をとることができた。
		学校生活が、自分主体に行えるように、相談体制・組織的な支援体制を活用する	保健だよりの毎月の発刊	A	保健だより毎月発刊。時事的な事柄の中から、健康を考えるように情報発信することに努めた。
			カウンセリング実施日 48日	A	臨時・電話等も含め48日実施
健康教室の充実化を図る		健康教室の実施回数 3回	B	コロナウイルス感染症予防の観点より、1つのみ動画配信することができた。	
広報部	募集ツール・広告宣伝・パブリシティの充実	募集戦略の強化：オープンスクール配布物の充実、ホームページ・公式Instagramの活用	B	各オープンスクールで生徒・保護者に学校を理解してもらうための十分な資料を準備した。国際食育デザイン科独自の公式Instagramを開設し、日々の活動を配信している。学校の公式Instagramもフォロワー数が357に達した。	
	オープンスクール・各種説明会の企画 ※特に選抜コースと国際食育デザイン科に力をいれる	年間4回のオープンスクールの開催	A	選抜OS(5月)を7月に第2回OS(9月)を10月に延長してでも実施し、年間4回のオープンスクールを開催できた。国際食育デザイン科のアピールに向けた進徳クッキングは7月と12月の2回実施した。	
	年間1回の塾対象説明会と年間2回の塾訪問	塾訪問(年3回)・塾説明会(年1回)の開催	C	塾説明会は9月1日にオンラインで実施した。塾訪問は田中学習会を中心に行ったが、年1回にとどまった。	
	人材育成を組織的・計画的に行い、学校経営のための広報活動に積極的に参加する意識を育てる。	本校の目指す姿を共通で認識する機会として、計画的に会議を行う。	A	広報活動が充実するように、意見を出し合い、よりよい活動をめざした。	

分掌	重点目標	達成目標	達成度	評価分析
普通科総合コース	グループにおけるプレゼンの実施・職業人講話の聴講・大学訪問などを行い、進路の具体化を促進する。	プレゼンやスピーチ練習などを随所に実施、職業人講話を5回以上実施	A	職業人講話4回【コロナで1回延期】
	キャリアトライアル担当者と連携しながら生徒の進路目標との一致を図り、進路意識を向上させる。	大学訪問・幼稚園/保育園実習・介護体験などへの参加率90%以上	A	1年生全員大学訪問実施 看護体験希望者はコロナの影響で中止
	「ことば表現」の授業で正しい日本語・接遇マナーなどを学び、日本語検定・サービス接遇検定を取得する。	各種検定2種類以上取得3年間で80%以上	A	2種類以上取得92%
	習熟度別授業(英語・数学)を実施し意欲向上に努める。また、基礎力診断テストを有効に活用する。	基礎力診断テスト(2・3年のみ)の判定D以下の割合50%以下、習熟度別授業における定期考査の30%以下の割合20%以下	D	学習意欲の差が基礎学力の未定着に繋がりが、特に下位層で目標数値に達しなかった。
普通科選抜コース	入試問題研究に基づく、大学入試に対応した授業の実践	外部の入試分析会への参加	A	今年度は説明会がオンラインで行われることが多く、出張を伴わない参加が多かった。
		ゼミを通じた探求学習による思考力や表現力の向上	A	フィールドワークに向けたプレゼンテーションや相互評価、自学ノートの提出、学年をまたいだゼミの時間で、思考力や表現力が向上した。
		学力の指標として模擬試験の偏差値向上(取り組み姿勢、試験後の解き直し指導)	A	各教科担による模擬試験指導を行い、模擬試験後の自己採点、解き直しを実践させる。
	自学自習習慣の定着(自宅学習時間ゼロを無しに)	家庭学習計画の提出(提出率:100%)	60%	提出方法をペーパーからipadに変更したため、提出の徹底が図れなかった。
	2年次2学期までに志望校決定	連携大学との交流・出張講義受講・訪問	A	夏季休暇中の県内大学への訪問、APU研修。
	志望校受験に対応した適正な文理選択	A	1年次夏面談時より、志望大学検討、文理選択の提案を行い、1年次冬保護者懇談で文理選択決定。	
国際食育デザイン科	調理の現場で貢献できる生徒を育成する。	調理師免許に必須である専門科目の試験(定期考査・実技試験)の全員合格	A	日々の授業の取り組みに加え、追試や個別での補充を定期的に行い、定期考査・実技試験の合格のための支援をした。
	各種コンテストや企業との商品開発などに挑戦し、本学科の知名度を上げる。	参加するコンテストの精選、入選率向上	A	コンテストの応募・入賞は少なかったが、おせち料理やフレスタでのスープ販売などの商品開発で地域の人に知ってもらえることができた。
	食関係のイベントに積極的に参加し、地域社会と密接に関連する。	各種イベントへの参加と校内実施の定着	A	今年度も昨年度と同様イベントの開催が少なかったが、牛乳乳製品コンテスト(本校実施)と南区スイーツフェアは生徒が参加した。
	生徒に明確な進路目標を掲げさせるとともに、基礎・基本を徹底し目標実現できる学力を身につけさせる。	専門性を生かした進路実現者数の増加	B	調理の就職が少ないことを予測し、他分野への就職、専門学校への進学へ進路変更をした生徒が数名いた。